# まちの話題お届けします

● 駅集札箱の受け渡し式典

## 日ごろの感謝の気持ちを込めて

製作した駅集札箱を披露する生徒たち

11/21　京都丹後鉄道宮津駅において「駅集札箱の受け渡し式典」が開催され、峰山高等学校機械創造科の生徒たち６人が「青松･赤松･黒松」の各列車をデザインした駅集札箱を寄贈しました。

この度の寄贈は、京都丹後鉄道の宮舞線・宮豊線の無人駅に設置している使用済みのきっぷや不足賃金を入れる「駅集札箱」の経年劣化に伴い、WILLER TRAINS（ウィラー トレインズ）株式会社から同校に製作を依頼。式典では、同社の飯島徹（いいじまとおる）代表取締役から「大切に使い、次の世代につないでいきたい」とのあいさつに続き、同校の岡田泰行（おかだやすゆき）校長からは「生徒たちが普段利用している駅への感謝の気持ちを込めて、一生懸命に製作した」と紹介がありました。また、製作に関わった生徒からは「寸法を一から出す作業や、アルミを切ったり削る作業が大変だった」と苦労話も聞かれました。

寄贈いただいた駅集札箱は、宮舞線・宮豊線の18駅で順次設置され、与謝野駅にも設置予定ですので、ご利用の際はぜひご覧ください。

● よさの着物大使

## まちや和装文化の魅力を発信

よさの着物大使の岩間さん（中央）と準大使の坂根さん（右）

11/12　「よさの着物大使」の選考会が大江山運動公園体育館において開催され、初代よさの着物大使に岩間啓子（いわまけいこ）さん（四辻）、準大使に坂根亜里沙（さかねありさ）さん（四辻）が選ばれました。

初の開催となる本選考会は、与謝野町観光協会と「道の駅シルクのまち かや」を管理運営する合同会社京都北都ブランドマーケティングが、与謝野町の誇る伝統産業「丹後ちりめん」の情報発信と和装文化の認知・振興のために実施。よさの着物大使に選ばれた岩間さんは「大好きな着物を着る機会が増えるのがうれしい。たくさんの人に着物や与謝野町の魅力を伝えられるよう頑張ります」と笑顔で抱負を話してくれました。

お二人は 今後、与謝野町内外で行われる和装・観光イベントなどに参加し、和装文化のＰＲや与謝野町の魅力を発信していかれる予定です。

よさの着物大使の活躍は、公式Instagram でご覧いただけます。

● 大正琴の祭典「令和５年全国子供大正琴コンクール」金賞（11/12　石川県金沢市）

※ 国民文化祭

廣谷（ひろたに） 夏羽（なつは）さん（加悦小４年）

小学１年生のときに、祖母の大正琴の演奏を見て興味を持った廣谷さん。普段は「峰山地域公民館キッズハープ」で練習を積んでいます。第一次選考で成績上位となり、迎えた初の全国の舞台では、５人のメンバーと交響組曲「ドラゴンクエストⅠ」を発表し、見事金賞を獲得。「緊張で手も足も震えたが、今まで一番良い演奏ができました」と笑顔で振り返ります。

今後の目標を「ソロの演奏に挑戦するので練習を頑張りたいです」と話してくれました。



# がんばってます！消防団

編集●本部

与謝野町消防団長

## 木村 正典（きむら まさのり）

**「火事を出さない、出させない」をスローガンに団員一丸となり予防活動に努めます**

明けましておめでとうございます。新年をご家族おそろいで健やかにお迎えになられましたこと、心からお喜び申し上げます。町民の皆さまには、日ごろより消防団活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

与謝野町誕生以来、「火災ゼロの町・与謝野町」をめざして消防団活動を実施してきましたが、昨年は2件の火災が発生しました。火災の原因は複雑・多様化していますが、一人ひとりが注意して火を取り扱うことで、出火を防ぐことができたものでした。消防団では引き続き「火事を出さない、出させない」をスローガンに防火意識の高揚を図るため、今一層の火災予防活動に努めていく所存です。

自然災害においては、台風7号を始め全国各地で豪雨が相次ぎ、日本各地に大きな被害をもたらしました。本町では、幸い大規模な災害はありませんでしたが、自然災害はいつどこで起きてもおかしくない状況で、災害を予測することが困難となっております。町民の皆さまにおかれましても、日ごろから災害に対する意識と備えを十分にお願いします。

昨年の与謝野町消防団の取り組みとしては、7月に「町長査閲」を実施し、消防団の消防力を遺憾なく発揮してくれました。また、10月には予防消防活動として「消防防災フェア」を開催し、町民の皆さまの防火防災意識の高揚を図ることができたものと思っています。いずれの取り組みについても団員は連日の訓練、準備を経て、当日はその成果を十分に発揮してくれたと振り返っております。

我々消防団は、日夜、消防防災の要として活動しているところですが、社会が大きく変化していく中、自営業の団員が減る一方、会社勤めの団員がその大半を占め、新入団員や昼間の火災などに出動する団員の確保が難しくなっており、消防団を取り巻く社会的環境は大変厳しい状況にあります。しかしながら、近年の災害発生現場において、多数の消防団員が目ざましい活躍をし、その重要性が改めて認識されているのも事実です。本年も消防力の確保とともに、町民の皆さまの生命と財産を守り「自分たちの町は自分たちで守る」という消防精神のもと、団員一丸となってさらなる精進をしていく所存であります。町民の皆さまのなお一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝と、本年が災害のない平穏で平和な年でありますよう心からご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。